

X 久喜市あゆみの郷

1. 実施事業

(1) 定員と利用率

令和 6.3.31 現在

事業名	定員	現員	平均利用率
生活介護	15名	17名	96.2%
就労継続支援B型	15名	15名	95.7%

(2) 利用者年齢構成

		10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均
生活介護	男性		3	4	3				35.3
	女性	1	1	1		2		2	48.4
就労継続	男性		4	4					31.0
	女性		4	1	1	1			34.1

(3) 障害支援区分

		区分3	区分4	区分5	区分6	計
生活介護	男性		3	4	3	10
	女性	1	1	4	1	7
計		1	4	8	4	17

(4) 工賃支給額

<生活介護>

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
4,506円	2,164円	3,494円	3,857円	3,860円	2,661円		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
2,631円	4,018円	3,780円	3,060円	2,105円	2,272円	3,842円	

<就労継続支援B型>

4月	5月	6月	7月	8月	9月		
13,435円	14,603円	18,414円	17,308円	19,570円	16,671円		
10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	
17,273円	11,214円	13,977円	15,965円	11,552円	13,862円	15,307円	

2. 重点実施事項

(1) 虐待防止・権利擁護の徹底

ア 利用者の気持ちを汲み取るため、個別に利用者に向き合う時間を作った。うまく言葉に表すことが難しい人には、ノートやスマートフォン、日記などを活用した。

イ 虐待防止、権利擁護に関する研修として、埼玉県社協主催2回、法人内研修2

回、内部研修 4 回に参加した。毎日の夕会では、適切な支援が行えていたかどうかなどの振り返りを行った。

ウ 虐待防止のセルフチェックシートを活用し、日々の支援を振り返った。セルフチェックの結果を全体で話し合うことにより、自分の支援を見つめ直す機会となった。

(2) 支援力の向上

ア 強度行動障害支援者研修(基礎研修)を職員 1 名が受講した。

イ ケース会議では、対応の難しい利用者について話し合い、支援の方向性を確認し合うことで、統一した支援が実施できるようにした。

ウ 朝会夕会を通じ、利用者の健康状態や情緒の様子など情報の共有化を図った。

(3) 地域活動への参加の促進

ア 地域行事の参加は、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、利用者の参加は自粛し、自主製品販売も職員だけで行った。

イ コロナの状況をみながらボランティアの受け入れを行い、利用者の余暇活動や施設周辺の環境整備、花の管理などに協力を頂いた。クラブ活動にも参加頂き、4 年ぶりにクラブを再開することができた。

ウ 社会福祉士実習は、感染防止策を講じながら 2 名の実習生を受け入れた。

3. 主な取組み

(1) 利用者支援(各事業共通事項)

ア 日常生活支援

連絡帳などを通して自宅での様子を把握することに努めた。睡眠不足や家族とのトラブルなどの情報があつた時は、本人の状態に合わせた対応を行った。

イ 社会生活支援

(ア) 社会活動を意識し、頭髪の乱れや洋服の汚れなどの身だしなみを意識するよう働きかけた。徐々にではあるが改善され、ボランティアからも変化の声が聞かれた。

(イ) 利用者自治会活動では、積極的に意見を出し合ったり、自治会長選挙に 4 人が立候補者するなど、活発な活動が行われた。自治会意見として最も要望が高かったのがグループ外出についてだったため、次年度には実行していきたい。

(ウ) 就労継続 B 型の利用者 1 名がグループホームでの生活を希望しており、相談支援センターと連携して実現に向けた対応を進めた。

ウ 感染予防対策

年間を通して感染防止策を講じていたが、8 月に利用者 10 名の感染者が出てしまった。家族とも密に連絡を取り合い、体調不良等の情報があつた場合は、利用の自粛や検査キットの使用を行ったが、感染のスピードが速く、収束するまでに約一カ月かかった。

エ 健康管理に関する支援

嚥下機能が低下してきた高齢利用者 1 名に対し、食事形態を刻み食に変更し

た。食事中の咽込み等が少なくなり、スムーズに食事がとれるようになった。

(2) 各事業の支援

ア 生活介護事業

(ア) 日常生活支援

新しく利用を開始した利用者に排泄機能の課題があったため、家族と連携を取りながら、排泄時間やトイレ環境の整備を行った。

(イ) 作業活動支援

室内作業、リサイクル作業、農耕作業などの作業種を提供し、適性に応じたグループ分けを行って取り組んだ。就労継続 B 型だけでなく、生活介護でも毎月の工賃支給ができた。

(ウ) 余暇支援

コロナの状況を見ながら、外出やテイクアウトの食事を楽しんだ。

イ 就労継続支援 B 型

(ア) 就労習慣の支援

鷺宮東コミュニティーセンター内の「コミュニティーレストラン きっちゃん・こすもす」で 8 名の利用者が実習を行なった。地域との繋がりも増え、やりがいを持って参加することができた。

(イ) 工賃向上の支援

作業種は委託業者からの内職作業と公共施設等の清掃業務を中心となった。内職作業では個々に適した作業工程や役割を負うことにより作業への参加意欲が高まり、また、作業種の単価交渉も行った結果、毎月の平均工賃は 15,307 円となり、前年度より約 2,000 円のアップとなった。

(ウ) 就労支援

利用者から「自分の今後の人生を考え、就職したい」との訴えがあり、支援センター等の関係機関と連携をしながら取り組んだところ、いくつかの課題を乗り越えて無事久喜市内の企業に就職することができた。

(3) 働きやすい職場づくり

ア 心身の健康維持

(ア) 職員との定期的な面談を実施。悩みや困りごとなどを話し合った。業務の内容や量についても聞き取りを行い、業務分担を見直すことで負担軽減を図った。

(イ) 連休取得の推進にむけて、職員から希望をとり可能な限り対応した。

イ 情報の共有

情報伝達については、朝会や夕会、各会議などを活用するほか、短時間職員には役職者が口頭にて説明するなど、情報漏れがないよう努めた。

(4) 事業運営

ア 事業収益の向上

生活介護事業、就労継続支援 B 型事業共に、1 名ずつの新規契約、2 名ずつの契約解除があった。現員数が変わらず利用率も昨年度と同程度となった。